

Pepper を用いた学生相談システムの検討

日大生産工 ○内田 康之 日大生産工(学部) 瀧田 累以

1 研究背景

大学では学生相談の一方策として、ピアサポートという制度を運用している。これは下級生が特定の上級生に、学生生活上の悩みを気軽に相談できる制度である。

しかしながら、双方の時間の都合などで機能的に運用されていない。そこで、ロボットが上級生に代わってピアサポートを行えば、それら課題を解決できると考えた。本研究では、実際に学生たちがどのようなことをピアサポーターに相談したいと考えているのかについて調査した結果を報告する。

2 相談したい内容の調査

2. 1 予備調査

まず初めに、予備調査としてKJ法により学生がどのようなことをピアサポート制度で相談したいと考えているのかについて整理した。KJ法により整理する内容は、「授業、ゼミナール、コース分け、サークル、やる気の出し方、諸手続き、グルメ、人間関係」の8項目とした。これらについての「聞きたいことは何か」を調査協力者に対して出題し、出てきた発言を整理し、相関関係の図示と答えの一文化を行った。



図1 KJ法に取り組む協力者の様子

KJ法による整理への協力者は、創生デザイン学科の2年生から4年生であり、3～5人のグループを構成して実施した。Fig.1にその時の様子を示す。

次に、実施の流れを示す。初めに「○○について聞きたいことは何ですか?」という問題提起に対して、グループで議論する。次に各々が問題に対する答えを5枚程度の付箋(文殊カード)に書く。そして、それらを見せ合いながら貼り出し意味を確認する。さらに、意味の似たものをグループ化し表札を付け、それらの相関関係を矢印で示す。最後に総括としてその問題に対する答えを一文にまとめる。

2. 2 アンケート調査

KJ法によって整理された情報だけでは、先の8項目に対する学生の興味関心の傾向は曖昧である。そこで、KJ法の結果をもとに傾向を把握するための3段階評価のアンケートを、創生デザイン学科の2年生、64人を対象に実施した。

アンケートの質問内容は、『大学入学後に、先輩に聞くこと(相談すること)ができれば良かったと思うことは何でしょうか?また、その度合いなどはいかがでしょうか?ご自身のこれまでの経験を振り返って、「授業、ゼミナール、コース分け、サークル、やる気の出し方、諸手続き、グルメ、人間関係」の計8項目を細分化した総数85個の問いについて、「聞きたい(相談したい)、どちらとも言えない、聞きたくない(相談したくない)」の3段階でご回答ください。』というものである。

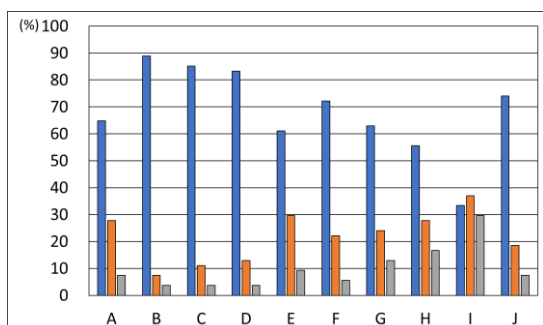
3 調査結果

アンケートの結果、項目毎の興味の傾向を把握することができた。結果の例として「授業、ゼミナール、やる気の出し方」の3つの傾向をFig.2～Fig.4に示す。問いごとに示した3本の棒グラフは「左(青色):聞きたい、中(橙色):

Consideration of Peer Support System using Communication Robot “Pepper”

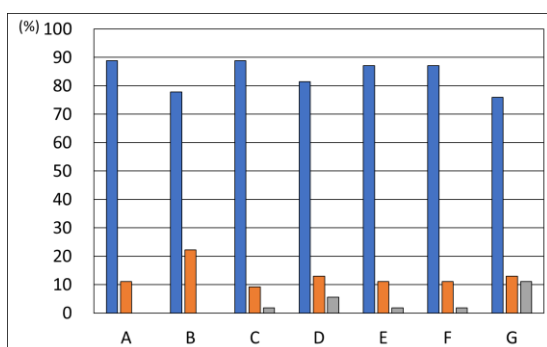
Yasuyuki UCHIDA and Rui TAKITA

どちらでもない、右（灰色）：聞きたくない」の割合を示している。



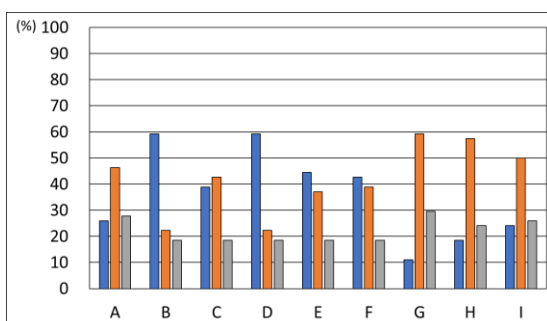
A) 各授業の成績の付け方, B) 辛い授業 (単位を取るまで多くの課題や難しいテストがある), C) 楽な授業 (簡単に単位が取れる), D) 楽な授業を行う先生 (遅刻不問や課題出題がないなども含む), E) 生徒の相談に親身になってくれる先生, F) 各授業の担当教員の特徴, G) 先輩たちの授業の選び方, H) 授業課題に追われた時の対処方法, I) 授業をさぼりたくなった時の対処方法, J) 制作課題などでのアイデアの導出方法

図2 授業に関する結果



A) 各研究室のインターン先の企業, B) 就職活動に有利な研究室, C) 各研究室の就職先の企業, D) 学科の進路や就職先, E) 各研究室のゼミナールの内容と就活の関連性, F) 研究室の卒業研究の内容, G) 先輩たちが研究室を決めたときの理由

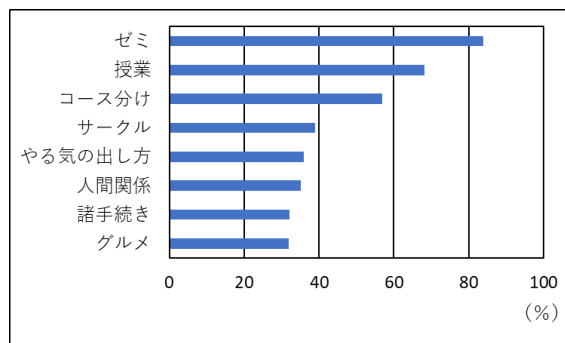
図3 ゼミナールに関する結果



A) 生理現象 (眠気など) への対処方法, B) 上手くいかない現状を打破する方法, C) 迷いや悩みの解決方法, D) 将来への不安を解消する方法, E) モチベーションを上げる方法, F) 目的や目標 (興味) を発見する方法, G) 食事管理の方法 (風邪の予防や脳に良い食事など), H) 周囲の環境 (部屋の汚さや人間関係など) が自分に及ぼす影響, I) 悩み事などの相談窓口の場所

図4 やる気の出し方に関する結果

また、8項目について、項目ごとに各問いの「聞きたい (相談したい)」の割合を平均化し代表値とした結果を、Fig.5に降順で示す。



ゼミ83.9%, 授業68.1%, コース分け56.8%, サークル38.9%, やる気の出し方36.0%, 人間関係35.2%, 諸手続き32.1%, グルメ32.0%

図5 「聞きたい(相談したい)」の項目別平均

4 考察

以上の結果から、「聞きたい (相談したい)」の割合が高かったのは、上から「ゼミナール、授業、コース分け」の順であることが分かった。2年生へのアンケートということもあり、3年生に進級した時に新しい環境となるゼミナールへの関心が非常に高かった。また、まだ履修していない授業、今後のコース分けの内容に関心が高いことが分かる。

逆に、「聞きたい (相談したい)」の割合が低かったのは、下から「グルメ、諸手続き、人間関係」の順であることが分かった。学生生活を送る中で、色々な手続きが必要になる場面は少なからずあると思うが、意外にも学生の関心はあまり高くないことが分かった。学業には直接関係しない人付き合いや、グルメの関心が低いことから、大学2年生がピアサポーターに主に相談したいと考えていることは学業に直接関係している内容であることが分かった。

5 現状と今後

現状は「聞きたい (相談したい)」という回答が多かった問いについて優先的に調査整理し、学生の「聞きたい (相談したい)」内容に対してPepperが的確に応答できるように、順次、プログラミングにより実装している段階である。今後については、今回のアンケート結果では、2年生の心境が強く反映されているため、全学年の興味や関心の傾向をアンケート調査により把握していく。そして、結果に基づく必要な情報について調査整理し、同様にPepperに実装していく計画である。